

駿府城跡天守台発掘調査

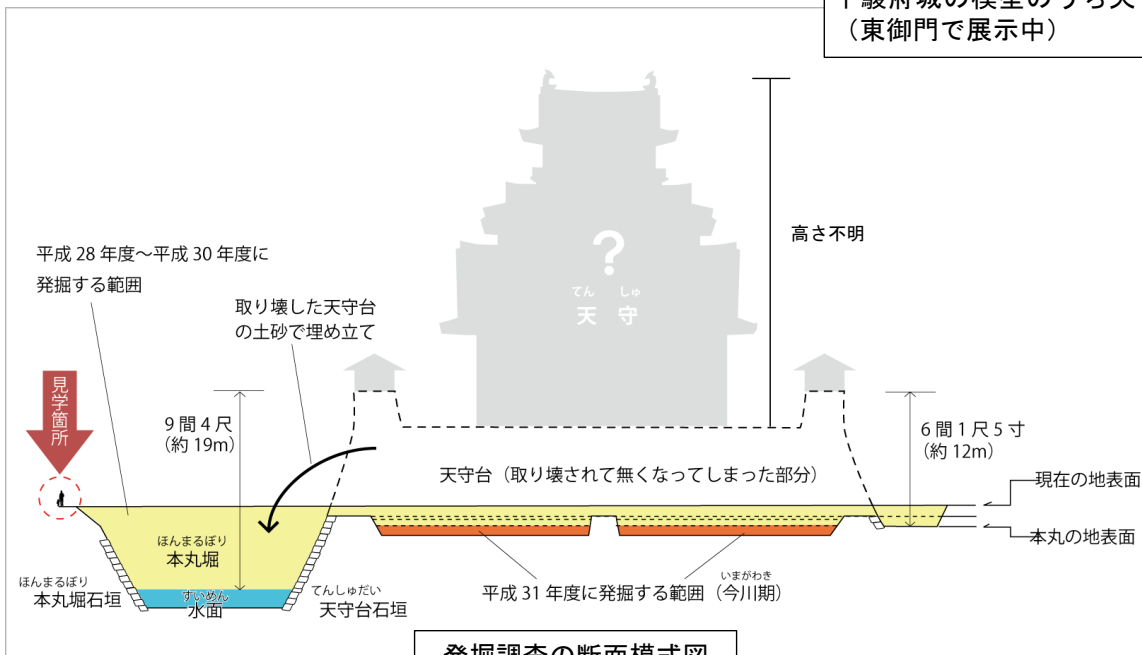
駿府城は、江戸幕府を開いたことで知られる徳川家康が築いた城で、将軍を退いた後、人生の最後の居城として1607年に築城しました。現在、その中心部分は駿府城公園として利用されています。天守は1635年の火事で焼失し、その後は天守台（天守の下の石垣造りの土台）だけが残っていましたが、駿府城が廃城になった後の1896年に、天守台は取り壊され、その土砂で本丸堀が埋め立てられました。かつて天守が建っていた跡地の整備方針を決定するため、事前に天守台の正確な位置や大きさ、石垣の残存状況などの学術的データを得ることを目的に、発掘調査を行うこととしました。発掘調査は、2016年8月に開始し、2020年2月まで実施予定です。

発掘調査を進めたところ、地面に埋まっていた江戸時代の天守台の石垣が姿を現しました。徳川家康は、全国の大名たちに命じて石垣工事を行わせており、石垣の石には、工事に参加した大名たちが付けたとされる刻印を見ることができます。出土品には、建物に使用した部材が多く、特に地中でも腐ることのない瓦がその大半を占めています。

2016年から2019年3月まで3年間で天守台全体とそこに接する本丸堀を発掘調査して、4年目は、天守台の内部をさらに掘り下げて、13～16世紀に駿河と遠江（現在の静岡県）を支配していた今川氏の時代の遺構を調査します。



↑ 駿府城の模型のうち天守台部分（東御門で展示中）



発掘調査の断面模式図



↑ 石垣の刻印



→ 出土した瓦

